

TOSHI TSUNE

PROFILE
BOOK

今につながる小松の礎を築いた
名君、前田利常公を知る。



NICE TO MEET YOU!
LEARN ABOUT ME AND
KOMATSU'S HISTORY!

【参考文献】

- 国書刊行会『明良洪範』（1912年）
- 財団法人前田育徳会『前田利常略伝』（1958年）
- 石川県美術館『前田利常展 図録』（1976年）
- NHK 歴史誕生取材班『歴史誕生15』『加賀百万石の救世主』（1992年）
- 石川県小松市『新修小松市史 資料編1 小松城』（1999年）
- 石川県小松市『新修小松市史 資料編2 小松町と安宅町』（2000年）
- 見瀬和雄『利家・利長・利常 前田三代の人と政治』（2002年）
- 北國出版社『ふるさと石川歴史館』（2002年）
- 小松市立博物館『小松と前田家』（2002年）
- 石川県小松市『図説 こまつ歴史』（2010年）
- 郷土出版社『図説 加賀の歴史』（2011年）

利常略年表

1593年(1歳)

前田利家の四男として誕生。

1600年(8歳)

「浅井騨の戦い」で苦戦した前田家の人質として、当時敵であった小松城主丹羽長重のもとへ。

丹羽長重に大切に扱われたのだそう。

1601年(9歳)

徳川秀忠の二女、珠姫(3歳)と結婚。

1605年(13歳)

兄利長から家督をつぐ。

1614年~1615年(22~23歳)

大坂冬の陣、大坂夏の陣に参戦し、その際の功績を認められ参議に昇進。

1622年(30歳)

珠姫が死去。弔いのため小立野に天徳院を建立。

1631年(39歳)

火災にあった金沢城の修復や船の購入が徳川幕府に対する謀反と疑われ、危機を迎える(寛永の危機)がうまく乗り越える。

1639年(47歳)

家督を嫡子の光高に譲り、隠居の地を小松に定める。

1640年(48歳)

小松城へ入城。

1645年(53歳)

光高が31歳で死去。光高の嫡子である綱紀が襲封することとなったが、3歳だったため利常が後見人となり小松城で政治を見ることに。

1658年(66歳)

小松城で死去

灰塚は小松市埴田町にあり、当時茶畑があったこの地を本人が希望したとの逸話を伝えます。

※年齢については、数え年で記載



TOSHITSUNE'S
PROFILE プロフィール

まえだとしのね
前田利常

前田利家の四男、加賀前田家三代

母

寿福院

初陣

大坂冬の陣

幼い頃の名前

猿千代、大千代

利常がよくわかる キーワード



「加賀百万石」という大大名たることを世に知らしめるほどのスケールで文化事業を進めた利常公。超一流で有名な文化人や名工を招いたり、お金に糸目をつけないほど数多くの美術品を国内さらには海外から蒐集したりと。文化事業で湯水のようにお金を使って幕府に対して軍事的に歯向かうつもりはないことを示したのではないかと話もありますが、文化では天下—ともいわれています。



小松城に隠居した利常公でしたが、嫡子の光高が亡くなってしまい、孫の綱紀の後見役として小松城から藩を取り仕切っていました。そうしたなか、改作法という農政改革を実施した利常公。滞納されていた年貢を免除するなど百姓たちを救済するとともに、安定した年貢の収納を実現。その成果は「政治は—加賀二土佐」と江戸でささやかれるほどに。



最大の外様大名として何かと幕府から目を付けられやすかった加賀藩。鼻毛が伸びすぎて見苦しく、家臣から鏡や毛抜きを渡された利常公は、「大大名として日本に知れたる私が利口そうな顔をしていると、大いに警戒されて無理難題をふっかけられてしまうのだ。鼻毛を伸ばして馬鹿そうな顔をして、相手にそう思ってもらえれば、加賀・能登・越中の三カ国は安泰で、皆安心していただけるのだ」と言ったらいい。



「前田利常画像」(部分) 那谷寺蔵

今につながる小松の礎を
築いた名君、前田利常公を
知る。

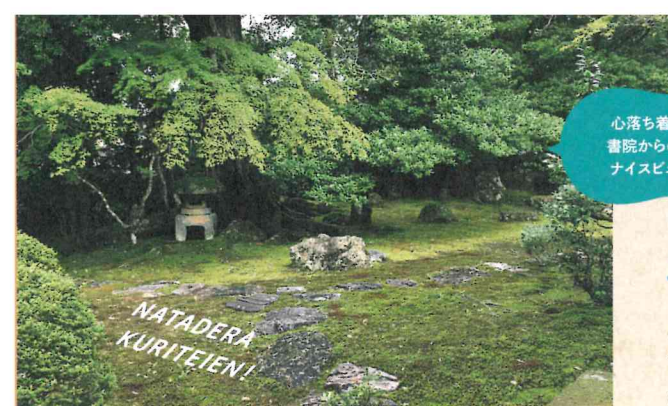
WHO IS
TOSHITSUNE?

加賀前田家三代当主として活躍した後、1640

年、隠居の地として幼少期の思いが残る小松城に入った利常公。その入城に伴い、多くの武士とともに職人や商人が小松に集まるようになり、さらに、古くからの特産品である絹織物や畳表の保護奨励を行い、瓦や茶などの生産を始めさせたことで、小松は南加賀における産業商業の中心となる街として大きく発展しました。

また、神仏をうやまい大切にしていた利常公は、小松天満宮や那谷寺など今も文化財として残る建造物を造営したことでも有名。茶道で有名な千利休の血筋をひく仙叟宗室や北野天満宮の連歌師・能順を京都から招くなど文化の振興にも力を注ぎました。

利常公の入城以来、小松は大きく発展し、町人文化が華開き、それは、今につながる小松の礎となりました。



心落ち着く現在の
書院からの眺めも、
ナイスビューです！



お花畑と庭づくり。

小 松城内にも趣向を凝らした広大なお花畑や庭園を造るため、領内から植木や石を集めさせるなど「庭づくり」に熱意をそそいだ利常公。那谷寺には、利常公が分部ト齋を作庭奉行として従事させ造らせた庭園が残っており、接して建つ書院には、庭を眺められるところに利常公の御成間が造られています。さらには利常公の四女富姫が八条宮智忠に嫁いでいることから、八条宮の別荘地であった桂離宮の整備にも多大な支援をしています。

神仏を敬う。

現在の小松
天満宮のようす



利 常公が神仏を崇敬していたことは、藩内で行った数々の寺社の造営にも表れています。小松における主なものとしては、荒廃していた那谷寺の再興と、前田家の祖先神・菅原道真を祀る小松天満宮の創建が挙げられます。いずれも名工の山上善右衛門嘉廣により本殿などが建てられ、それらの建造物は国の重要文化財となっています。また、多太神社や本折日吉神社、葭島神社へ土地を寄進したほか、郊外にあったいくつかの寺院を城下に移転させました。移転してきた寺院は、いざという際に外敵から城を守るように配置されたともいわれています。



梯川の水を引き入れた
巨大な堀と7つの島から
なる「浮城」のようす。



KIRIKOMI
HAGII!

中でも石垣の積み方は
こだわりのポイント！



レックスステディ
TOSHI
TSUNEI

ちょっと一服
しませんか？

茶文化愛。

茶 の湯を愛した利常公。1652年には千利休の孫宗旦の四男である仙叟宗室を小松に迎えます。仙叟が利常公の家臣だけでなく町人にも茶の湯を広めたことで、茶道文化が町に浸透していきました。小松の地に茶の湯が広まったのも利常公と仙叟がいたからこそ。同時に利常公は茶器などを全国から集めるとともに、美術工芸品の藩内生産も進めました。そのことが伝統工芸・九谷焼の生産にも繋がっていったとされています。

仙叟宗室(せんそうそうしつ)

利休の茶を継ぐ三千家(表千家・裏千家・武者小路千家)のうち「裏千家」の流祖となる。



TEA CULTURE!



1997年、仙叟宗室没後300年を記念して、芦城公園に見事な茶室が寄贈されました。

GEN-AN!

能が好き。



利 常公の父である利家公は鑑賞するだけでなく、自分でも舞うほど能が好きでした。自身にもその能好きのDNAは受け継がれていたようで、流派の一つである金春流の役者を家臣にしていました。その後、加賀では「宝生流」が主流になり、「加賀宝生」として広まりました。小松では今も能楽が市民の間で盛んであり、子どもたちにもその伝統が継承されています。



KAWARA!

製茶や畳表など今も小松に
根づく産業のきっかけはこ
の時代にあったんですね！

TATAMI!

ものづくり
の振興。

産 業の保護奨励を行い、小松のものづくりを発展させた利常公。古くからの小松の特産品で品質の統制などが行われた絹織物。城の整備に際して日末や連代寺で焼かせたことから始まったという瓦生産。京都から種を取り寄せて栽培が始まったとされる製茶業など。とくに絹織物の商いで力をつけた商人たちは、曳山子供歌舞伎を始める原動力となりました。産業の保護育成に力を尽くした利常公が、のちに華開く町人文化の礎を築いたと言えるでしょう。



VISIT KOMATSU CASTLE!

能登半島地震の被害により閉館しました

① 小松市立博物館

「二階御亭入口扉」、「葭島御殿
兎門扉」のほか、城の大改修の際
につくられた「いぶし瓦」や「天井
板」、小松城のお座敷で実際に使
われていたとされる「襦絵」なども
所蔵。

惹きつけられる美しさ



二階御亭入口扉
見事な彫刻が
すばらしい。(★2)

唐子琴棋書画
遊芸襖絵
小松城のお座敷
で使われていたと
される四枚一組
の豪華な襖絵。



小松城瓦
小松城の大改修の際、蓮代寺
と日末に瓦窯が築かれ、城に供
給されていたのだそう。



利常公ゆかりの地
「小松城」跡を
訪ねる。

手間と費用が莫大にかかる貴重な工法。



③ 本丸櫓台石垣

高校の敷地の隅に残る小松城櫓台(★1)の石垣。直線的に加工した石材をすき間なく積み上げていく「切込ハギ」という工法を用いています。小松の凝灰岩のほか、コーナーの要所などには戸室石も使われています。



前田利常像

貴重な石がゴロコロ!



② 芦城公園

小松城の三之丸だったところの公園。小松城で使われていたとされる戸室石がいくつか発見できます。園内には前田利常像や仙叟没後300年を記念して建てられた「仙叟屋敷ならびに花庵」という立派な茶室もあり見ごたえ充分です。

小松天満宮は「どんどん
まつり」のあんどん行列の
出発地点でもあるんだよ!



④ 来生寺

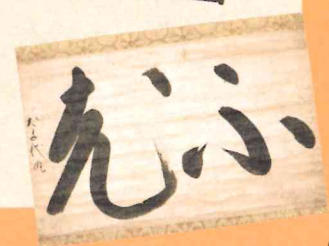
二之丸から枇杷島へ渡る鰻橋にあった鰻橋門(★3)は来生寺に移築され、寺門として利用されています。当時をしのぶ数少ない貴重な遺構の一つです。

門の前
城があつた
想像してみる
いいよね。



⑤ 小松天満宮

利常公が小松城に隠居したの
ち、鬼門の方角にあたるこの地に
建立。小松城で使われていた風
炉先や利常公の書などを所蔵。





能登半島地震の被害により閉館しました

① 小松市立博物館

「二階御亭入口扉」、「葭島御殿鬼門扉」のほか、城の大改修の際につくられた「いぶし瓦」や「天井板」、小松城のお座敷で実際に使われていたとされる「襖絵」なども所蔵。

惹きつけられる美しさ！



二階御亭入口扉
見事な彫刻が
すばらしい。(★2)

唐子琴棋書画
遊芸模絵
小松城のお座敷
で使われていたと
される四枚一組
の豪華な襖絵。



小松城瓦
小松城の大改修の際、蓮代寺
と日末に瓦窯が築かれ、城に供
給されていたのだそう。

利常公ゆかりの地 「小松城」跡を 訪ねる。

手間と費用が莫大に
かかる貴重な工法。



③ 本丸櫓台石垣

高校の敷地の隅に残る小松城櫓台(★1)の石垣。直線的に加工した石材をすき間なく積み上げていく「切込ハギ」という工法を用いています。小松の凝灰岩のほか、コーナーの要所などには戸室石も使われています。

貴重な石がゴロゴロ！



② 芦城公園

小松城の三之丸だったところの公園。小松城で使われていたとされる戸室石がいくつか発見できます。園内には前田利常像や仙叟屋敷300年を記念して建てられた「仙叟屋敷ならびに玄庵」という立派な茶室もあり見ごたえ充分です。



前田利常像

④ 来生寺

二之丸から枇杷島へ渡る鰻橋にあった鰻橋門(★3)は来生寺に移築され、寺門として利用されています。当時をしのぶ数少ない貴重な遺構の一つです。

門の前で
城があった頃を
想像してみるのも
いいよね。



小松天満宮は「どん
まつり」のあんどん行列の
出発地点でもあるんだよ！



⑤ 小松天満宮

利常公が小松城に隠居したのち、鬼門の方角にあたるこの地に建立。小松城で使われていた風炉や利常公の書などを所蔵。

